



住み良さ日本一の県づくりについて（平成19年12月定例会）

現在、人口減少と少子高齢化が同時進行する中で、中央と地方、特に大都市と農山漁村において地域間の格差が拡大し、その早急な是正を図っていくことが課題になっています。また、地方分権改革が進展する中、個性豊かで活力ある地域社会を実現するために、それぞれの地方が自らの創意工夫を存分に発揮した取り組みをすることが大切だと思います。

今年度の県政世論調査の結果を見ますと、殆どの方々が山口県は住み良い県であり、これからも住み続けたいと思っておられますが、昨年度との比較では、その割合が若干減少しています。様々な取組がなされているのに、大変、残念に思います。

私は、県民の皆様が、本県を明るく住み良い県と実感できるよう、更なる取組が必要ではないかと考えます。例えば、これまで以上に安心して子どもを産み、育て、子育て後には再就職することができる社会づくりや、次代を担う若者が夢と希望を持てる活力ある街づくり、高齢者が生き甲斐を持ち、心豊かに暮らせる環境づくりなどが必要だと思います。

そこで、お尋ねします。先の自民党の代表質問で、知事さんは4選に向けて頑張るという決意を表明されましたが、今年度の取組も踏まえ、住み良さ日本一の県づくりに向けて、今後、どのように取り組まれるのか、ご所見をお伺いします。

二井知事答弁

私は、「住み良さ日本一の元気県」を実現するために、一昨年10月に、県民生活に身近な「健康と福祉」「子育て・人づくり」など5分野において、暮らしの水準を客観的に表す57の「住み良さ指標」、数値目標を策定し、これを公表いたしました。

現在、この指標を市町や県民の皆様との共有の指標としながら、その向上に努めているところがあります。

市町や県民の皆様のご智恵と力を結集し、指標のさらなる向上を図りますとともに、山口県の良いところはさらに伸ばし、また、他県に比べて十分でない分野につきましては、施策や取組を重点的・集中的に進めていきたいと考えております。

今後とも、本県の特徴である多様性やバランスの取れた住み良さをさらに高め、県民誰もが住み良さを真に実感できる、「住み良さ日本一の元気県づくり」の加速化に全力で取り組んでまいります。

中山間地域においては、少子高齢化と共に人口減少が激しく、過疎化にいつそうの拍車がかかっています。